

営として工事中のものに例えれば、若北部の津奈木干拓などがある。
更に開拓に関連する開拓地改良事業として開拓入植をスムーズにするために開拓地の施設（飲料水施設・道路・用排水路・防風林など）を整備する仕事で、すでに各地の開拓地で着々進められている。

改良的な事業とは

まず、普通よくいわれている土地改良として、かんがいと排水事業がある。かんがいは、水不足の田畑に水路等で水を供給すること。逆に排水とは、湿地地帯の水を適当に排水調節することだ。かんがいは、工事で主なものには三十三年度から着手している球磨南部利水、二十八年着工の通潤地区（上益城郡矢部町）の工事などがある。排水工事では、今年度から考えられている阿蘇谷中東部地区（一の宮町）の水路や三十二年着工の中島地区（熊本市）の樋門の工事などがその代表的なものである。

次に区劃整理事業だが、これは耕作や経営をやりやすくするために耕地の整理を行う仕事である。現在、団体営（市町村、農協、土地改良区等）で行っている下益城積迎堂地区（富合村）の工事などその主なものである。

防災的な事業とは

最も大きな仕事として海岸保全施設整備事業があげられる。老朽化した干拓堤防を、災害から守るために未然に補強す

る工事だ。県内の沿岸線は五〇〇程度で補強が完備して、全国屈指とまでいわれている。
その他に農地の浸蝕を防止するための農地保全事業（長溝川地区一八代郡宮原町一の工事など）や溜池ろう水防止事業それに計画中の地すべり防止事業などいろいろの仕事がある。

災害復旧事業とは

いわゆる災害による被害の復旧だが、

現地ルポ (その1) うるおう球磨南部 球磨南部利水地帯を行く

まず市吉市にある熊本県球磨南部土地改良事業所をたずねた。一口にいって球磨南部利水事業とはどんなものか、この工事係長の田辺さんにきく。概略次のような話だった。

この利水事業は目下建設中の市房ダムを水源として、球磨川下流の南岸一帯にわたる約三六〇〇ヘクタールの水田、開拓地、既存畑に対して用水を供給したる畑地かんがいをいう事業ということになる。つまりこれを現況から照らしてみると現在、球磨川の南岸一帯の約二六〇〇ヘクタールが水田かんがいが行われているが、この利水の二大幹線ともいえるべき幸野溝、百太郎溝がひどく老朽しているため、これをまず改修すること。さらに幸野溝を錦村まで延長して一〇〇〇ヘクタールの畑地かんがいをいう。そのた

それが今までのように単なる原型復旧にとどまらず、原則的には原型復旧であっても、場合によってはさらに改良を加味した恒久的な新しい対策を考へてほしいという声が全国的におこっている。
以上が現在県下で行われている土地改良事業のあらましだが、ではここでさらにその現地の姿を、二のぞいて見ることにしよう。

め用水源である市房ダムから毎秒一五トンの用水を確保し、第二発電所において幸野溝へ約八トンを送り残りを発電に使う。そして発電に使った水は百太郎堰で貯められ、百太郎溝へ流されるといふ計画だそう。すでに現在まで三十三年度工事として幸野溝の隧道の改修や岡原村の水路の新設が完了したが、三十四年度分としては、両溝の取入口の改修や大巾な水路の新設工事が目下進められている。

活気づく球磨南部

以上のように、この利水事業による効果は約三六〇〇ヘクタールというから相当なものだが、その受益面積を事業種目別にみるとかんがい排水によるもの約三〇〇〇ヘクタール、開拓地改良事業によるもの三〇〇ヘクタール、開墾建設によ

るもの約三〇〇ヘクタールとなる。今度はさらに、これを区域別に分けると水田で約二六〇〇ヘクタール、畑地かんがいのものでは既存畑で一六三ヘクタール、開拓地の増反や入植の分が約五四〇ヘクタール未開墾地約三〇〇ヘクタールという具合になる。この利水事業はすべて県営工事で行われるが、支線にあたる水路の工事は、地元の土地改良区事業と県が協力してやることになっている。

開拓地に水がくる…☆

事業所を後にしてジープで一路上村の下原第一開拓地へ。山つきの広々とした台地。開拓農家が各地に点々とちらばっている。早速組合長の清村さん、幸野溝沿いにジープでさらに上流に向



—清村さん—

ねてみた。清村さんの話は大体次のようだった。
この開拓地に水が通ることになるが、従来まで水不足で悩まされていた開拓地にとってはまさに大きな富農刷新が期待される。つまり、いわれる硝子質の火山灰土の開拓地では唯一の土層改良として、黒土といもごと心土をすきかえて炭カルを施していたが、これに水がプラスすることになればその苦勞もなくなり地力も倍加される。開拓管農はいま曲り角にきている。問題は水だが、この利水事業で水がくれば畑地かんがいに伴って早期栽培に切り換え、そのあとに飼料作物などが考えられている。ひいては酪農振興も大いに期待できる。現在陸稲は反収平均六斗五升だが、畑地かんがいに伴えば一石二斗は楽になるかも知れない。とにかく陸稲を主体とした営農形態の確立は全開拓地の夢でもあった。それが南部利水によって実現できるのだから、これほど素晴らしいことはない。

二億円をムダにするな…☆

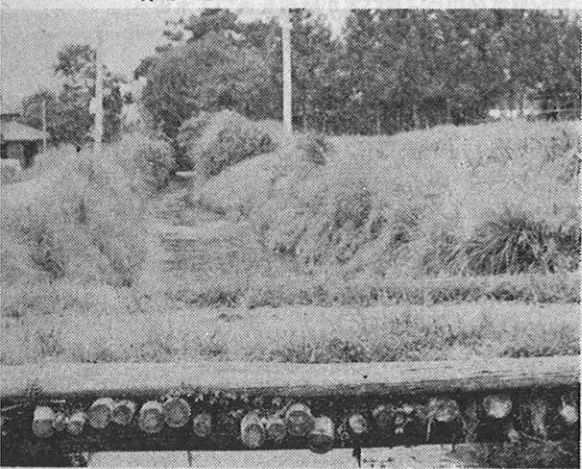
幸野溝沿いにジープでさらに上流に向つて走る。廃溝とまではいかないが、かなり老朽化した底の浅い溝が随所にみられた。幸野溝の管理をやっている湯前町の幸野溝土地改良区事務所をたずねる。球磨南部土地改良区連合理事長の豊永さん



—豊永さん—

んに工事の状況や効果などについて話をきく。
水の管理には今までのいぶん苦勞してきた。幸野溝が古くなつて水洩れのカ所が多いためには多良木方面、夜は岡原村方面というふうな時間かんがいをしていたが、改修工事が進むにつれてその必要もなくなってくる。実際いつて取入口に近い古城隧道などひどく痛んで、もう一年も放置していたら完全に廃墟となるところだった。昨年この隧道の改修工事も無事にすんだ。今年には上流水路の改修と下流の新設水路工事に着手している。開拓地を貫く下流一帯の水路をつくるためには、一刻も早く古い幸野溝を改修することが先決である。今年の十二月にはいよいよダムに水が溜ることになるが、この水を無駄にせず、流さなければならぬ。皆んなが口ぐせのようにいう「二億円をムダにするな」（利水による球磨南部平野の米の増産は年間二億円といわれる）という合言葉に、球磨南部の人たちすべての願いと期待がこめられているのではない。

一改修をひかえた幸野溝



幸野溝（こうのみぞ）
球磨郡湯前町に発し、多良木町、久米村、岡原村、上村の各町村を貫流している用水路。宝永二年（一七〇五年）に、相良藩士高橋政重の指導のもと十年の歳月を経て完成したもの。全長一八キロ、今も百太郎溝とともに球磨盆地のかんがいの大動脈となつている。
百太郎溝（ひやくたろうのみぞ）
幸野溝より十五年も古くにできたが、指導は同じく高橋政重といわれている。多良木町に発し、岡原免田、上村をへて錦村に流れている。全長十八キロ。

